

## すてきな切り紙おばあさん。高鳳蓮

周路 著 岩田温子 訳

第7回 約束を果たして(最終回)

延川を離れて以来、高鳳蓮さんの剪纸の展覧会開催のことはずっと私の心に掛けていました。高鳳蓮さんの展覧会は北京で行われたことはありますが、それは他の人たちとの合同展覧会で、高鳳蓮さん単独での展覧会が開催されたことはありませんでした。

国外での開催は手続きの面倒さや経費の問題などがあり簡単ではありませんが、中国国内でなら機会はあるでしょう。この十数年間、私は延川の友人たちの剪纸展、布堆画展、写真展、書画展を何回も開催しました。しかし、これらの展覧会にかかる経費は出展者が自費で負担し、作品が売れたかどうかは私は関与しませんでした。これらの点でとても気楽でした。

2004年3月、とうとう高鳳蓮さんの展覧会開催の機会がやってきました。長年の友人達である中国科学技术大学人文学部の数人の教授たちと話し合った結果、中華民族文化とその精神を知り高揚させることに視点を置いた教育の一環として、中国科学技术大学という、中国で最も注目される理工系大学が陝北民間剪纸展を開くことを決定しました。

実は、当初の計画では比較的年齢が若く、この年の初めに合肥で展覧会を開催し、好評を得た延川の別の剪纸芸人を招く予定でした。ところが、高鳳蓮さんが4月に



高鳳蓮さんの展覧会のポスター

北京へ行き、学術研究会に参加した後、帰郷の途中に合肥に立ち寄りという知らせをもらいました。私は強力に高鳳蓮さんを推薦し、教授たちも私の意見を受け入れ、高鳳蓮さんの展覧会と特別講演を中国科学技术大学で開催することになりました。

大学は高鳳蓮さんの、70歳という年齢に配慮し、彼女の娘と孫が同行すること、全行程の旅費と宿泊費はすべて大学側の負担とすること、作品の売り上げは全て彼女のもとに入れることに同意しました。

2004年4月12日の朝、高鳳蓮さんの一行三人は北京での「非物質文化遺産研究会」出席後、合肥へまっすぐやってきました。

← 作品の前で嬉しそうな高鳳蓮さん  
於：中国科学技术大学の展覧会場







来場した子どもたちの真剣なまなざし

4月15日に始まった展覧会では、大学構内の立派な広い会場一杯に高鳳蓮さんの剪紙や布堆画\*の作品が展示され、会期中は学生たちをはじめ、一般の来場者がひきもきらず訪れ、自由な発想で大胆に剪られた作品を前に賞賛を惜しみませんでした。

また、会場で実施された高鳳蓮さん達による剪紙実演では、毎回多数の人が彼女達の周りを取り囲み真剣なまなざしで剪紙を剪り出す手元を見ていました。

展覧会は4月23日無事に終了し、高鳳蓮さんも大学も展覧会の成功を喜び、私も高鳳蓮さんとの約束を果たすことができました。中国科学技術大学は、大学創立以来、初めての高水準な民間剪紙芸術展開催の結果、教師と学生たちの視野を大きく広げることもでき、大学が意図した目的を十二分に果たしたといえます。



### \*【高鳳蓮さんの布堆画作品】

高鳳蓮さんは剪紙の著名人ですが、布堆画と呼ばれるアップリケの制作にも意欲を燃やしています。

布堆画は陝西省延川一帯では昔から盛んにおこなわれているのですが、もともとは女性たちの普段の暮らしの中の針仕事でした。

子供たちが遊び、男たちが畑仕事をすれば衣服の肩や膝の部分はすぐに薄くなり、破れます。頭がよくて手先が器用な女の人たちはすぐにその部分に当て布をして繕うのですが、その部分を自然の花の模様に縫うようになり、その習慣から、新しい衣服(特に子供の衣服)にも花の模様、獅子や虎の模様が縫い付けられるようになりました。

模様を縫い付けた衣服は彩りも豊かで楽しい印象を人々に与えられました。そしていつか、布堆画は衣服から独立して壁に掛けて鑑賞をする民間の芸術品として見られるようになりました。

高鳳蓮さんの布堆画は衣服とは関わりなく、剪紙で表現しきれないものを表現できる美術形式として制作されています。布堆画に盛り込まれた内容は剪紙同様のもので、図柄も剪紙作品のコピーのようです。ただ、多色の布を貼り合わせ、重ね合わせることで画面に様々な色彩が加わり、作品を一層印象的にしています。

作品の主題は、君主や門神などですが、それに加えて、民間伝説や実生活の描写を補足的に取り入れています。また布堆画の余り布でチョッキ、ショルダーバッグ、財布などを商品として制作したりしています。



山神



門神

\*'わんりい'HPで華やかな色使いをご覧ください